

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●角田大河騎手がJRA初騎乗で初勝利を達成

3月5日(土)の1回阪神7日・第1レースではメイショウソウゲツが1着となり、同馬に騎乗した角田大河騎手(栗東・石橋守厩舎)は、JRA初騎乗で初勝利をあげました。JRA初騎乗初勝利は2021年の永野猛蔵騎手以来、史上49人目の記録(JRA移籍後初勝利を含む)です。

●幸英明騎手がJRA通算2万2000回騎乗を達成

3月5日(土)の1回阪神7日・第8レースでサトノルーチェに騎乗した幸英明騎手(栗東・フリー)は、史上2人目、現役2人目となるJRA通算2万2000回騎乗を達成しました。デビューから28年0か月1日、46歳1か月22日での達成で、武豊騎手の記録を更新する史上最速および最年少記録となります。

●池上昌和調教師がJRA通算100勝を達成

3月5日(土)の2回中山3日・第10レースとして行われた上総Sではホウオウルパンが1着となり、同馬を管理する池上昌和調教師(美浦)は、現役145人目となるJRA通算100勝(延べ1622頭目)を達成しました。

●ピワハイジが死亡

2月25日(金)、ピワハイジ(牝29歳)が北海道安平町のノーザンファームで老衰のため死亡しました。同馬は1995年阪神3歳牝馬S(GI)を制覇して同年のJRA賞最優秀3歳牝馬を受賞しました(レース名などは当時のもの)。繁殖牝馬としては、ジャパンカップをはじめGIを6勝したブエナビスタ、阪神ジュベナイルフィリーズ(GI)勝ち馬ジョウドヴィーヴルなどを出しています。

●ラヴズオンリーユ어의競走馬登録抹消

2019年優駿牝馬(オークス)(GI)の勝ち馬で、2021年にはブリーダーズCフィリー&メアターフ(米GI)など3つの海外GIを制したラヴズオンリーユ어(牝6歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算12戦5勝・海外4戦3勝)は、2月2日(水)付で競走馬登録を抹消されました。北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●クリンチャーが名古屋大賞典(名古屋)で人気に応じて連覇達成

現名古屋競馬場では最後のダートグレード競走となった名古屋大賞典(JpnIII、3月10日、名古屋、1900m)は、5~6番手から差を詰めた単勝1.4倍で圧倒的人気のクリンチャー(川田将雅騎手、牝8歳、父ディーブスカイ)が、先に抜け出した2番人気のケイアイパールをゴール寸前でアタマ差捉えてこのレース連覇達成。逃げたジンギ(兵庫)が3着に粘り、エブリワンブラックは4着、3番人気のアナザートゥルースは5着、アメリカンフェイスは6着でした。

●若草賞(名古屋)は高知のアンティキティラ【各地の主要3歳重賞】

若草賞(3月1日、名古屋、1400m、牝馬)は、4番手から4コーナー手前で先頭に立った高知からの遠征馬アンティキティラ(父シニスターミニスター)が後続を4馬身引き離し、単勝1.9倍の支持に応じて花吹雪賞に続く重賞2連勝を達成。ユングフラウ賞(2月23日、浦和、1400m、牝馬)は、これが北海道から船橋への転厩初戦だった6番人気のスティールルージュ(父マジスティックウオリア)が、3~4番手追走から直線に入って間もなく抜け出して1馬身半差で完勝、3度目の重賞制覇を果たしています。

●ヘリオス、ピンシャンらが参戦、3月16日の黒船賞(高知)

黒船賞(JpnIII、3月16日、高知、1400m)は、根岸S2着など好調が続くヘリオスが中心、ピンシャン、一昨年の覇者ラブタス、3年前の優勝馬サクセスエナジー、イグナイター(兵庫)が続き、トラスジェミニは初のダートが課題となりそうです。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ドバイの「スーパーサタデー」が行われる

現地3月26日の「ドバイワールドCデー」に向けたステップレースをまとめて行う「スーパーサタデー」が3月5日にドバイのメイダン競馬場で開催されました。メインレースとなるG1アル・マクトゥームチャレンジラウンド3(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、ダート2000m)を制したのはハイポセティカル(牡5歳、父ロペデヴェガ、S.ピン・ガディヤー厩舎)。M.バルザローナ騎手とのコンビで逃げ切って、G1初制覇を果たしました。また、この日行われたもう1つのG1であるジェベルハッタ(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝1800m)は、アルファリーク(騾5歳、父ダークエンジェル、M.アル・メイリ厩舎)がD.オニール騎手を背に中国から差し切って優勝。こちらもG1初制覇となりました。

●G1オーストラリアンギニー〜モーリス産駒のヒトツが制す

現地3月5日にオーストラリアのフレミングトン競馬場で行われたG1オーストラリアンギニー(3歳、芝1600m)はJ.アレン騎手の手綱で直線最内から伸びたモーリス産駒のヒトツ(牡3歳、C.マー&D.ユースタス厩舎)が優勝。昨年10月のG1ヴィクトリアダービー(芝2500m)優勝からのG1連勝を決めました。ヴィクトリアダービーとオーストラリアンギニーのダブル制覇はマホガニー(1993/94年シーズン)以来、史上3頭目となる快挙です。